

日本化薬グループ CSRレポート

ダイジェスト

NIPPON KAYAKU GROUP CSR REPORT

2017



世界的すきま発想。

 日本化薬

Our Global Network

世界に広がる日本化薬グループ

EUROPE

オランダ

Dejima Tech B.V.
Dejima Optical Films B.V.

ドイツ

Euro Nippon Kayaku GmbH

チェコ

INDET SAFETY SYSTEMS a.s.

ASIA

中国

無錫宝来光学科技有限公司
POLATECHNO (HONG KONG) CO. LIMITED
無錫先進化薬化工有限公司
化薬化工(無錫)有限公司
上海化耀国際貿易有限公司
化薬(湖州)安全器材有限公司
化薬(上海)管理有限公司

韓国

Nippon Kayaku Korea Co., Ltd.

台湾

台湾日化股份有限公司

マレーシア

Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn. Bhd.



日本化薬グループの事業

生命と健康を守る



医薬事業

「スペシャリティ、バイオシミラー、ジェネリック」を重点領域とし、得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます。



セイフティシステムズ事業

火薬類の多彩な技術を応用し、自動車安全部品のインフレーター、マイクロガスジェネレーター、スクイブなどの製品をグローバル市場に提供しています。



編集方針

本レポートでは2016年度のCSRアクションプランに沿ってCSR活動をダイジェストとして報告しています。ウェブサイト「CSR情報」では、本レポートの内容に加え、環境に関する詳細なデータやグループ会社の事例など、より多くの情報を開示報告しています。

- 報告対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日
- 報告対象組織：日本化薬株式会社、国内及び海外のグループ会社の取り組みを含みます。ただし、一部の人事データと環境のデータは日本化薬単体です。
- 参考にしたガイドライン：ISO26000

従業員数

5,517 名

売上高

1,591 億円

事業展開

10 カ国・エリア

NORTH AMERICA

アメリカ

Moxtek, Inc.
MicroChem Corp.
Argental, Inc.
THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC
NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.

メキシコ

Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V.

JAPAN

日本

日本化薬株式会社
株式会社ボラテクノ
株式会社日本化薬福山
株式会社日本化薬東京
株式会社ニッカファインテクノ
日本化薬フードテクノ株式会社
株式会社TDサポート
株式会社ナック
株式会社西港自動車学校
有限会社YMKサービス
和光都市開発株式会社
株式会社日本人材開発医学研究所
株式会社沖浦ゴルフセンター
厚和産業株式会社
群南産業株式会社
持分法適用会社
カヤク・ジャパン株式会社
株式会社カルティベクス
三光化学工業株式会社
化薬アクゾ株式会社

INDEX

Sustainability

04 トップメッセージ

05 日本化薬グループのCSR経営

06 特集：技術力の継承と、次世代を支える「人づくり」

08 For the Future

Performance in Fiscal 2016

10 CSRアクションプランの活動報告

12 事業活動を通じた取り組み

14 お取引先への取り組み

15 お客様への取り組み

16 環境と健康と安全への取り組み

18 社会への取り組み

20 従業員への取り組み

22 コーポレート・ガバナンス

豊かな暮らしを支える



機能化学品事業

樹脂、色素、触媒の技術を応用・複合化して、情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある製品を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献していきます。



アグロ事業

農業用の殺虫剤、除草剤、殺菌剤や土壌くん蒸剤のほか、衛生害虫の殺虫剤等も製造・販売しています。食の安定供給に不可欠な農薬を社会へ提供しています。



情報開示の考え方

日本化薬グループではCSRプロジェクトで本レポートを作成しています。CSR活動のうち報告すべき話題を選定し、日本化薬グループにとっての重要性和社会にとっての重要性を考慮し、優先順位をつけて報告しています。

本レポート
掲載領域

ウェブサイト
掲載領域

CSRアクションプランに沿ったCSR活動の中で進捗のあったものを抜粋して報告

すべてのCSR活動を報告

TOP MESSAGE

トップメッセージ

「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」

時代の変化を先取りし、100年の歴史で培った技術を進化させながら、これからも持続可能な社会・環境に貢献し続けます。

代表取締役社長

鈴木政信

日本化薬グループは2016年に創立100周年を迎えました。これはすべてのステークホルダーの皆さまのご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。私たちは創業時より一貫して世のため人のために貢献しようという真摯な姿勢で事業活動を行ってまいりました。市場や世の中の大きな変化にあっても、持てる技術を磨き柔軟に進化させながら、最良の製品を生み出してきた遺伝子こそが、100年を超えて継続し成長し続けていける原動力であり、当社グループの強みであると考えています。

「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」(KAYAKU spirit)を企業ビジョンとしています。これは創業時より長く経営に携わった三代目社長の原安三郎の経営思想を表した社は「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」がもとになっており、この精神を今日まで受け継いできました。一人ひとりの良き心を結び合うという「良心の結合」のもと、組織であれ個人であれ、途切れることなく進歩を続けるという「不断の進歩」によって、世の中に必要とされる「最良の製品」を提供し、社会に貢献していくという考え方で、このように、私たちはKAYAKU spiritを実践する社員一人ひとりの企業活動そのものがCSR経営であると考えて取り組んでおります。

時代は常に変化しています。私たちは持続的な企業活動をしていく上でさまざまな社会的な課題に対処していかなばなりません。当社グループが取り組む事業分野を見てみますと、自動車社会は世界中で拡大を続けており、自動車の安全性向上はさらに重要になるでしょう。国内に目を向ければ、高齢化社会を迎えて増えていく医療費が社会的な課題となっています。また、ワーク・ライフ・バランスを考えた働き方改革も進んでいきます。これらの課題に事業を通じて取り組んでまいります。自動車安全部品を供給していくことはもちろん、抗がん薬やバイオシミラーなど患者様のQOL (Quality of Life : 生活の質) 向上や医療費低減にも貢献できる医薬品、色素や樹脂の技術を活かした特長のある機能性材料など、世の中の要請に応えることができる最良の製品を継続して生み出していきます。

私たちは、101年目を着実に歩みはじめています。昨年定めた3カ年の中期CSRアクションプラン2016-2018に沿って、新たな技術や事業の創生を図りながら、最良の製品とサービスを提供し続け、100年後も社会の一員としての役割を果たしていけるよう、全社一体となって取り組んでまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本化薬グループのCSR経営

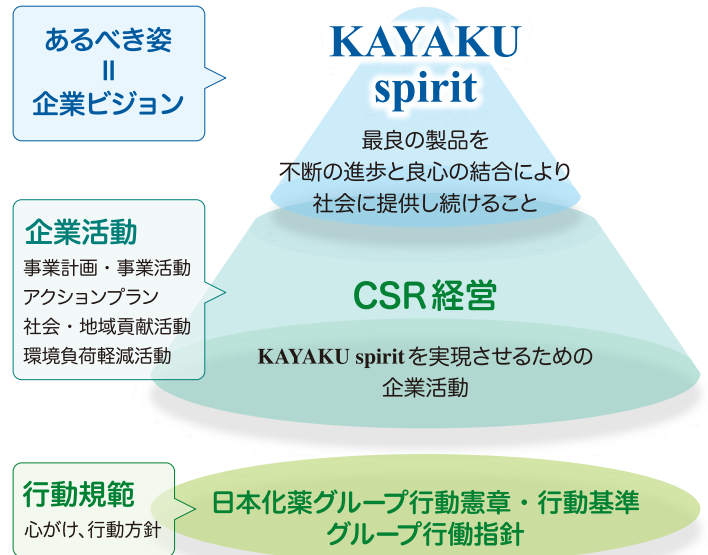
日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することにより、すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を行っています。

KAYAKU spiritとCSR経営

KAYAKU spiritの「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。これは50年以上前に制定された社是を元にしており、私たちの中に息づくCSR経営の原点となる考え方です。

また、KAYAKU spiritを実現するための行動規範として、「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」「グループ行動指針」を定めています。

当社グループではKAYAKU spiritを実現させるための企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を実現してまいります。



CSRアクションプランと経営戦略

当社グループの経営基本方針は、すべてのステークホルダーの信頼に応えるため中期CSRアクションプランを策定し、「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」企業として持続可能な社会・環境に貢献することです。この経営基本方針のもと、中期的な取り組みとして、2016年度よりスタートした中期CSRアクションプラン2016-2018を策定しています。このアクションプランは、事業発展に向けた研究開発の推進やサプライチェーンマネジメントによる

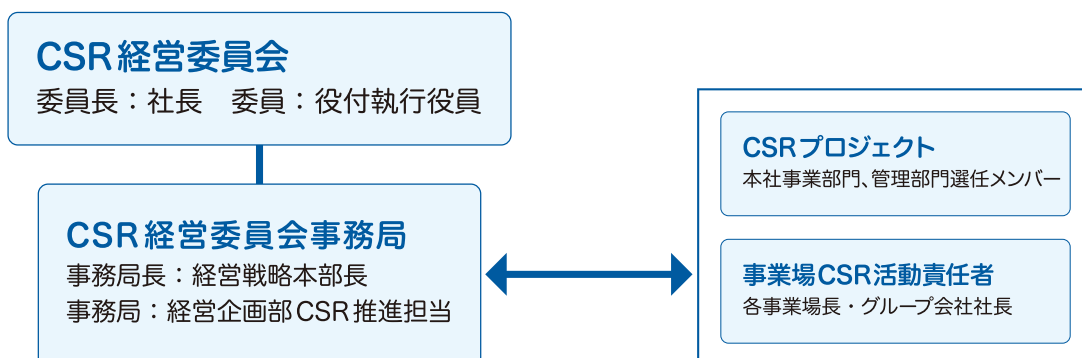
CSR調達の推進、中期環境目標に向けた取り組み、ガバナンスの強化など、すべてのステークホルダーに対して果たすべき行動計画を盛り込んでいます。そして、これに連動させて中期事業計画 *Take a New Step 2016* を策定し事業戦略を実行しています。

このように事業全般にわたり、安全操業・コンプライアンスの徹底・環境への配慮を重視し、高い倫理観を持ちながら、経営戦略と一体となったCSR経営を実践してまいります。

CSR推進体制

CSR経営委員会を2010年に設置し、経営戦略本部経営企画部にCSR推進担当を組織しました。CSR推進担当は、組織

横断的なCSRプロジェクトを運営し、各事業場やグループ会社が主体的に取り組める体制を取っています。



For the Next 100 Years

特集：技術力の継承と、次世代を支える「人づくり」



グローバル企業として次の100年を見据える今、長い歴史の中で培ってきた高度な技術力をいかに次世代に、さらにグローバルに継承していくかが重要課題です。日本化薬の得意とする「融合」を、技術のみならず「人づくり」にも活かす。それが、次なるイノベーションの第一歩と日本化薬グループは考えます。

ベテランから若手への技術継承 日本化薬福山の取り組み

日本化薬福山は、機能性材料と色素材料の製造を行う日本化薬の製造受託子会社（2000年設立）で、グループ製品の安定供給を担う重要な拠点の一つです。近年、ビジネスのグローバル化が進展する一方、中堅人材の不足に見舞われていました。2014年10月時点で、正社員の約7割が40歳未満。中堅層が定年となる5年後には、20～30代の社員が中心となって日本化薬福山を支えていかねばなりません。近い将来、ベテラン社員が定年を迎えるまでに、伝統の技術を確実に継承し、基礎力を上げることは急務でした。

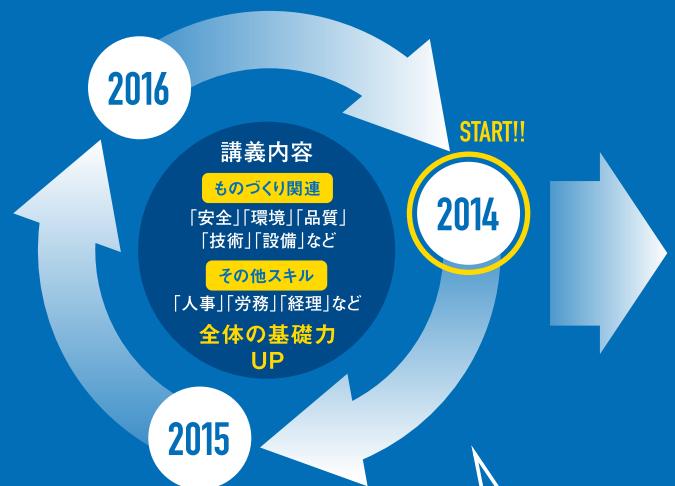
この課題を克服するため、工場が持つ機能を網羅的に習得できる新しい教育プログラムの構築に取り組みました。3年を要する本格的なもので、49のカリキュラムから社員のステージに合わせて受講します。部署横断の部会を設け、資料づくりや講師をつとめるなど、工場全体を巻き込むことで、実効力のある組織体制を整備しました。

2014年、プログラムが本格稼働。係長、チームリーダーなど中堅以上の社員が中心となって講座内容を考案し、新人社員は

時間をかけて幅広いスキルを学んでいます。教育を通じて、工場の縦糸と横糸が絡み合い、世代を超えた連帯感も生まれました。2017年以降も新たな3ヵ年計画を立て継続して実施するとともに、他拠点にもノウハウを横展開することで、次世代を支える人づくりを強力に推進していきます。

日本化薬福山の教育プログラム(概要)

1サイクル目



2016年度で1サイクル目が終了

- POINT 1 OJTとの両輪で、横断的に理解を深める
- POINT 2 勤務時間内に受講することができる
- POINT 3 部署を超えたコミュニケーションが可能に

安全文化と意識高揚
(通常の訓練では触ったことがない管理部門の社員も訓練中)

MESSAGE

「現場力を高め、さらに強い会社へと前進するために」



日本化薬福山 教育システム構築メンバー
(写真左から) 今井真澄(リーダー)、難波晋一、岸戸弘樹、小林和史

このままでは、大変なことになる——中堅・若手社員数のアンバランスさに危機感を抱いたのが2012年。そこからチームを組み、入念な打ち合わせを行いながら教育プログラムを企画・作成し、2014年には日本化薬グループでも前例のない取り組みとしてスタートすることができました。苦労したのは、工場の主機能はあくまで「生産」という中で、いかに手厚いプログラムを「実施」するか、という点。トップや部会メンバーの合意をとりつけ、教育を勤務時間内に実施できるようにしたことが、成功の秘訣かもしれません。

教育をする。そして学ぶ。という社員同士の交流の機会が増えたことが、よいコミュニケーションとなり、風通し効果にもつながっています。初めての取り組みのため、意見や問題点が色々とはできますが、そのつど話し合いで解決しながらチャレンジしています。これからもメーカーとしての人づくりを地道に進めながら、強い会社へと前進する努力を続けていきます。

2サイクル目



2017年度から新たなサイクルが開始

「原価・損益 基礎編」
の講義風景



TOPICS

セイフティシステムズ事業のグローバルな品質管理と人づくり

グローバルに自動車安全部品を提供しているセイフティシステムズ事業は、同じ品質を管理し保証することが要求されています。製造拠点もグローバルに展開しており、マザー工場である姫路工場では文化・言葉・技術などの環境が異なる各拠点の要求事項を勘案しながら、さまざまなバラツキ要因に強い「ロバスト設計※」をすることで同一品質を実現させています。

一方でグローバル各拠点では、現地のローカルスタッフの中からマネージャーやラインワーカーは、マザー工場での長期研修を受講することで知識や技術を身につけます。また、研修を終えたスタッフが各拠点に戻った後に、現地での講師となることでさらなる知識と技術を継承しています。

これらの研修は、言葉や文化の違う各拠点と一緒に行うことで、グローバルな人材育成にもつながっています。

※ロバスト設計：外乱や誤差に対して製品の性能や品質があまり変化せず、影響が小さくなるように設計する



マレーシアからの研修生と
姫路工場 品質保証部メンバー

For the Future

豊かな生活を目指した日本化薬グループの
現在および未来の製品や技術

土木用火薬、爆薬破砕剤類
含水爆薬、アンホ爆薬
電気雷管、非火薬破砕剤

フレキシブルディスプレイ
ウェアラブルパソコン
有機半導体

印刷材料
感熱顕色剤

のぼり旗
捺染用インクジェット色素

偏光サングラス
偏光素膜

デジタルカメラ
微細カラーフィルタ用カラーレジスト
ブラックマトリックス用樹脂

プロジェクター
偏光フィルム
無機偏光板

スマートフォン、タブレット
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素
半導体封止材用エポキシ樹脂
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂
液晶シール剤、コート用樹脂、タッチパネル用接着剤

菓子
品質保持剤

洋服
染料

食品
健康食品原料

衛生用品
ウエットクロス

カーテンエアバッグ
インフレーター

ダンボール
紙用染料

除菌スプレー
エタノール製剤

農業
殺虫剤、除草剤、
土壌くん蒸剤

ケーブル保護
防鼠剤
害虫駆除
防疫剤

CFRP
マトリックス樹脂

熱伝導性耐熱絶縁材料
電動航空機の電動モーターコイル

廃水処理技術
水をきれいにし
自然にかえす技術

医療用医薬品
抗がん薬
ジェネリック医薬品
バイオシミラー

花火
黒色火薬
煙火用火工品

医療
医療機器
原薬
診断薬

エネルギー変換材料
健康診断センサー
熱電変換素子

抗がん薬内包高分子ミセル

巨大水槽
透明樹脂の原料である
メタクリル酸製造用触媒

おむつ
高吸水性樹脂の原料
であるアクリル酸製造
用触媒

トイレトペーパー
紙用染料

車載用シート
染料
シートベルト
染料

シートベルト
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード
マイクロガスジェネレータ

ディスプレイ
半導体封止材用エポキシ樹脂
液晶シール剤
液晶パネルスペーサー用樹脂
カラーレジスト用樹脂
コート用樹脂
プリント基板用樹脂
機能性フィルム
カラーフィルタ用色素
赤外線吸収剤

車載用ディスプレイ
液晶ディスプレイ用フィルム
液晶シール剤
エンジン
エンジンモーター制御
半導体用エポキシ樹脂
プリント基板用樹脂

ヘッドアップディスプレイ
光制御フィルム

ふせん
紙用染料

エアバッグ
インフレーター
サイドエアバッグ
インフレーター

CFRP
マトリックス樹脂




アクリル塗料、ライトカバー
塗料・部品の原料である
アクリル酸製造用触媒、
樹脂接着剤

光ディスク
接着剤
コート剤

プリンター
インクジェット
プリンタ用色素

Performance in Fiscal 2016

CSRアクションプランの活動報告

分類	No	中期CSRアクションプラン 2016-2018	CSRアクションプラン2016 結果
 生命と健康を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する	NK105 乳癌国際共同試験については主要評価項目が未達成、今後の臨床試験計画を立案中 ジェネリック剤3剤上市、バイオシミラーの開発は順調に進捗
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を予定通り実施、より多くの自動車安全部品を世界に供給 グローバル市場からの品質要求に対応できる製品を目指し新世代製品の開発を実施中
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> グループ内外の研究機関と共同研究を推進 各研究所と連携しコーポレート研究3件を新規立ち上げ 全社研究発表大会や分析評価技術交流会等を開催し、知的財産・技術の融合を図る取り組みを実施 中国グループ会社でのグローバル管理体制を確立
	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する*1	<ul style="list-style-type: none"> 環境対応型エポキシ樹脂や産業用インクジェットで事業展開を推進 アクリル酸製造用高性能触媒も鋭意開発中
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する	新規殺虫剤の登録作業を進め、農薬安全使用説明会を各担当地域で実施
 持続可能な社会・環境に貢献する	6	サプライチェーンマネジメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 監査、調査等を通じて積極的にサプライヤーとのコミュニケーションをとることで調達リスクを把握し安定調達を確保 CSR調達に対するサプライヤーへの周知活動を展開
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	重大顧客苦情：0件*2 「なぜなぜ分析」・品質技術教育等による職場力強化のための品質保証活動は継続して実施 品質保証本部を設置し、グローバルな体制を強化
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する	2015年度の実績を踏まえ、2020年度の中期環境目標を見直し、より厳しい目標に向かって取り組みを開始 省エネ機器更新やエネルギー使用方法の見直し等を推進、省エネ点検も実施
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる	プロジェクトを組み、既存廃水処理技術の見直しと新規処理技術の探索を実施、今後の成果に向け活動中
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ピンクリボン活動：10月に海外グループ会社も含め各事業場で活動を実施 子ども体験型イベント(教育CSR)：各事業場やイベントで化学実験ショーを実施 工場祭・懇談会等：計画通り実施 ・「あすなるの家」利用家族数：104家族(稼働率51%)
 いい会社・強い会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	事業報告書では任意記載事項を充実し、アニュアルレポートでは企業価値創造プロセスを説明し非財務情報を充実化 IFRS導入検討プロジェクトの活動を継続して実施
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 「女性の活躍推進に向けた取り組み」行動計画を策定し、目標及び行動計画を社内外に公表 製造技術の継承・発展のための教育を各事業場・グループ会社にて継続実施(女性管理職登用比率：6.7%*2、障がい者の法定雇用率：2.1%*2) 「プラチナくるみん」認定に向け各種の取り組みを実施、本年度末実績で申請予定 育児、介護休暇を半日単位でも取得可能に制度を変更
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス研修受講率、健康診断受診率ともに100%達成*2 ストレスチェックを実施、高ストレス者への対応も実施 重大事故災害の発生：0件*2 化学物質管理の強化を目的としたリスクアセスメントの社内浸透活動を実施 全社レスポンスブル・ケア方針・目標を各グループ会社へ周知するとともに、環境安全衛生診断等で取り組み状況を確認 グループ各社で安全衛生活動(各種安全教育、KYT、ヒヤリハットなど)を継続して実施
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	<ul style="list-style-type: none"> 売上高計画は未達成となったもののコストダウンを推進し営業利益は計画を達成 資本効率化を目指し、適正在庫管理を徹底、遊休資産の売却を推進
	15	有事においても事業継続性を確保する	<ul style="list-style-type: none"> 台風被害を想定したBCP訓練を触媒事業部および厚狭工場を対象として実施 中国グループ会社2社のBCPマニュアルを策定
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	<ul style="list-style-type: none"> CSR研修：グループ会社7社73人を含め12回260人に実施 コンプライアンス研修：国内集合研修33回2,023人、DVD研修1,422人、海外グループ会社6社の幹部等506人に実施 化学物質に関わる法令を含めグループ全体で各国・地域の法令を遵守した事業運営を遂行 社外取締役に対する、取締役会付議案件の事前説明や各事業の責任者との意見交換の機会を設置
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 重要な会議体の運営状況を評価しガバナンスが機能していることを確認 計画通り内部監査を実施、フォローアップ監査はグループ会社3社に実施 キャリア採用者を新たに対象に加え、従業員に対する情報セキュリティ教育を継続実施 情報セキュリティポリシーを次年度実施に向け策定中

*1：2017年4月より表現を一部変更 ※2：日本化学単体の数値

CSRアクションプラン2016の目標に対する2016年度の取り組み結果
および評価を詳細に記載しています。また、CSRアクションプラン2017の
目標も合わせて記載しています。

Action Plan アイコンについて

活動報告の各ページにはアクションプランの対応番号を明示しています。



生命と
健康を守る



豊かな暮らし
を支える



持続可能な社会・
環境に貢献する



いい会社・
強い会社になる

★★★ 達成 ★☆☆ ほぼ達成 ☆☆☆ 努力中 ☆☆☆ 未達

単年評価	掲載ページ	CSRアクションプラン2017
☆☆☆	12-13	抗がん薬内包高分子ミセルとがん領域抗体バイオシミラーの開発推進、ジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
★★★★		
★★★★	12-13	国内、海外各拠点で生産体制の拡充・強化を進め、安全操業をもとに、世界の各地域において高品質な製品を提供
★★★★		グローバル市場の高まるニーズにマッチした新世代の製品の設計・生産・販売を計画通り実施
☆☆☆	12-13	社会ニーズ(顧客価値)を的確に捉えた最良の製品に繋げる研究開発を推進(社内外の知的資産を融合した横断的研究開発の遂行、組織横断的な研究交流の場の提供と運営、コーポレート研究テーマの遅滞ない遂行)
★★★★	WEB	知的財産の創造・保護・活用の推進、国内外グループ会社での管理体制の強化
★★★★	12-13	半導体・電子デバイスの軽薄短小化、デジタル印刷の進展に貢献する機能化学品材料を提供する
★★★★	12-13	新規殺虫剤の上市と製剤化技術を活かした工夫製剤の開発、既存剤の適用拡大
★★★★	14	CSR調達への推進による調達リスクの低減と安定調達を確保し、品質向上と適正購買を推進
★★☆☆	15	重大顧客苦情の発生をゼロにするため、なぜなぜ分析の実施、ヒューマンエラー防止の取り組み、再発防止策の水平展開、リスクアセスメントを継続して実施
★★☆☆	7	セーフティシステムズ事業におけるグローバル品質保証体制の強化活動を引き続き実施
★★☆☆	16-17	2020年度中期環境目標に向けた取り組みの推進
★★☆☆	WEB	エネルギー使用原単位対前年度比1%以上削減の取り組みの推進
★★☆☆	WEB	グループ会社を含めた廃水処理技術の向上のため、廃水負荷削減技術および廃水設備運転最適化を検討、実施
★★★★	18-19	各地域における工場祭・懇談会・地域清掃活動・ピンクリボン活動・子ども体験型イベント(教育CSR)等の継続実施
★★☆☆	WEB	企業価値向上を意識した財務・非財務情報をタイムリーかつ公平・公正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を充実化
★★☆☆		IFRS導入に向けての準備・調査を継続実施
★★☆☆	20-21	多様な人材が活躍できる環境づくりと人材育成(ダイバーシティ&インクルージョン)(女性活躍の推進、グローバル人材育成、製造技術の継承・発展のための教育等)
★★☆☆		次世代育成支援対策推進法に則した取り組みの推進(育児・介護の支援、男性の育児参加促進、時間外労働の削減、有給休暇取得率の向上等)
★★☆☆	WEB	改正男女雇用機会均等法に則した職場環境の整備(セクハラ・マタハラ・LGBTへの対応)
★★★★		従業員の労働安全衛生へ配慮した健康経営の推進(メンタルヘルス研修の継続実施、ストレスチェックの実施、安全衛生にかかわる職場改善等)
★★★★	WEB	事故災害を未然に防止するための活動の継続実施(防災訓練、安全審査、化学物質管理の充実とリスクアセスメントの効率化等)
★★☆☆		グループ各社で「日本化薬グループ2016年度レスポンシブル・ケア方針」に基づく安全衛生活動を推進、海外グループ会社の環境安全診断および教育を実施
★★★★	WEB	経営資源の最適配置と資本効率化を図り、中期事業計画の達成を目指した事業運営を推進
★★★★	23	現場に則した訓練の実施、BCPマニュアルの見直しを継続実施
★★★★	WEB	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修の継続実施
★★☆☆		各国・地域の法令遵守、法改正等への迅速かつ適正な対応
★★☆☆	22	取締役会の実効性評価の実施、社外役員との適時な情報交換を通じてガバナンス体制を強化
★★★★		内部統制、リスク管理の継続実施と体制強化、内部監査の実効性の向上とフォローアップを継続実施
★★☆☆	WEB	情報セキュリティ体制を整備し、企業情報管理の強化を推進するとともに、情報管理に対する従業員の意識向上とグループ会社への展開を図る

事業活動を通じた取り組み



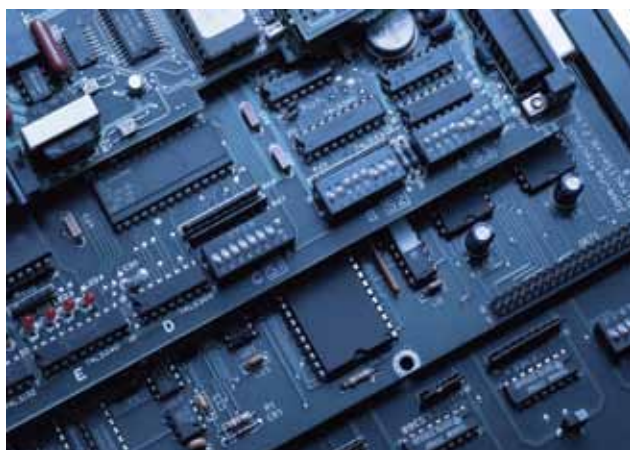
日本化薬グループは、KAYAKU spiritを実現するための企業活動としてCSR経営を行い、機能化学品事業・医薬事業・セイフティシステムズ事業・アグロ事業の4つの事業を通じて社会に貢献していきます。創立以来、基盤となる火薬や染料、医薬、樹脂などの技術を融合・変化させながら時代のニーズに応えた最良の製品を提供してきました。

今後も新製品、新事業の創出を加速するため、2016年度は組織を見直し、13ページのイラストでご紹介しているように研究開発部門と事業部門が一体となって取り組む体制としました。市場ニーズを的確にとらえた製品開発を行うための「縦糸」と組織を超えた知恵と技術の融合やコーポレート研究を推進する「横糸」を織り、最良の製品を創出していきます。

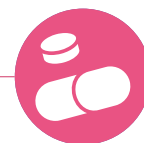
機能化学品事業



来たるべき社会は「必要なもの・サービスを必要なだけ提供し、生き活きと快適に暮らすことのできる社会=超スマートな社会」といわれています。情報通信分野は、個人電子端末と家電や自動車とのネットワークがますます拡大し、それに伴う電子端末に搭載される半導体デバイスの小型化、高性能化、画像表示パネルの高精細化が急速に進んでいます。また、省エネルギー・省資源の要請はますます高まってきております。機能化学品事業では、樹脂や色素、触媒で培った技術で情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある製品を提供し「超スマート社会」の実現に貢献します。



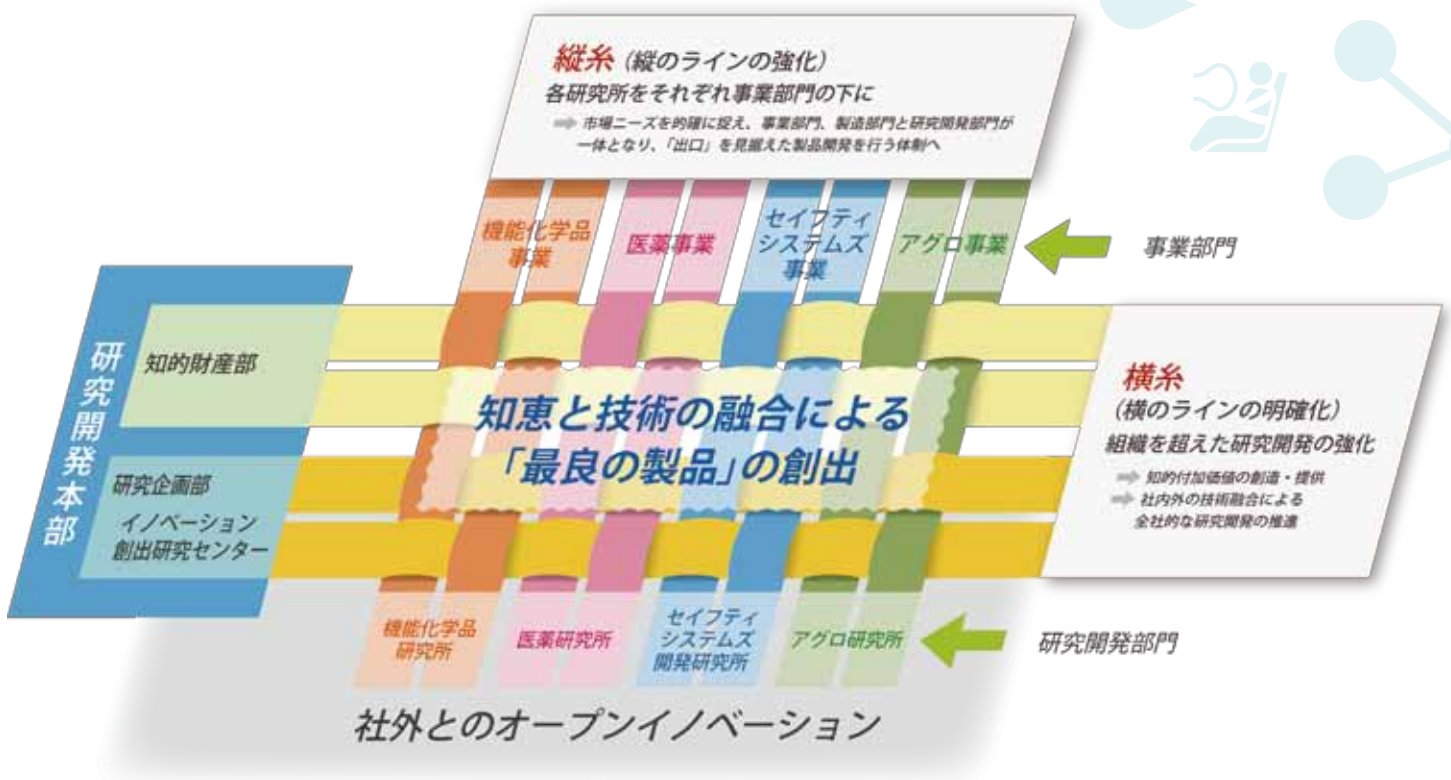
医薬事業



医薬事業では、ナノテクノロジーを用いた抗がん薬内包高分子ミセルに注力し、加えてバイオシミラーおよびジェネリック医薬品など、抗がん薬とその周辺領域に特化した研究・開発を進めています。また現在、乳がんに対する抗体バイオシミラーの国際共同試験に参加し、「フィルグラスチムBS」、「インフリキシマブBS」に続くバイオシミラーの製造販売承認取得に向けて取り組んでいます。

得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます。





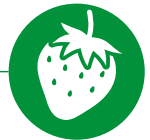
セイフティシステムズ事業



世界の自動車生産台数は、東南アジアなどの新興国は中国に次ぐ高い成長が予想されており、これまで以上に自動車安全部品の搭載率が飛躍的に高まることが予想されます。セイフティシステムズ事業では、火薬技術を我々のコアコンピタンスとして研究を続け自動車安全部品を製造販売しています。また、市場に製品を送り出すまでのさまざまなプロセスを開発段階から各部門が連携し、開発から製造・販売までのプロセスを同時に進めることで、素早く市場に製品を提供することを実現しています。今後は、これまで以上に連携を海外拠点間にも広げることで、グローバル製品価値を高め、社会に貢献していきます。



アグロ事業



アグロ事業では、化学農薬のみに頼らない総合的病害虫管理 (IPM) に適した、気門封鎖剤「フォーモン」を2016年2月に上市しました。本剤には、①成分が食品添加物で使用されているポリグリセリン脂肪酸エステル②散布回数に制限はなく、収穫前日でも使用が可能③ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類や、うどんこ病の同時防除が可能④薬剤抵抗性が発現した対象病害虫に有効 などの特徴があり、いちご・トマトなどの野菜分野に幅広く使用していただき好評を得ています。

今後も、ニーズにあった技術や資材を研究開発し、提供し続けることで農業に貢献していきます。



お取引先への取り組み



持続可能な社会・
環境に貢献する

日本化薬グループは2015年にCSR調達方針を制定しました。

お取引先の皆さまと安定調達や安定供給などに努め、サプライヤーの皆さまとのコミュニケーション活動を積極的に行っています。



CSR 調達の取り組み

日本化薬グループは、サプライヤーとのコミュニケーションを通じて持続的な相互発展関係を築く努力をしています。私たちは、品質・価格・安定供給の確保・法令遵守・人権尊重・労働安全衛生・環境保全などは、サプライヤーと一丸となり取り組む重要な要素と考えています。

2016年度は国内外のサプライヤーに向けて、日本化薬グループの購買理念および購買基本方針のご紹介とCSR調達にご協力いただきたい旨の書面やCSRレポートを同封し、ご協力をお願いをしました。目を通された皆さまから貴重なご意見・ご感想が寄せられました。今後は海外グループ会社への啓発にも取り組みます。

購買理念

日本化薬グループは、KAYAKU spiritを実現するために、『お取引先は最良の製品づくりの大切なビジネスパートナー』との考えに立ち、お取引先と相互の持続的な発展を目指して参ります。

購買活動におきましては、法令や社会規範を遵守すると共に、購買基本方針に基づき公平・公正で誠実な取引を行います。

セイフティシステムズ事業 購買説明会の開催

セイフティシステムズ事業では、日頃お世話になっている協力会社を対象に、年に一度「購買説明会」を実施しています。これは、業績見込みや次年度以降の事業計画、生産体制の現況、開発計画、中長期ビジョン、購買方針を説明し、これらを協力会社の事業計画の参考情報の一つとしていただくことを目的としています。

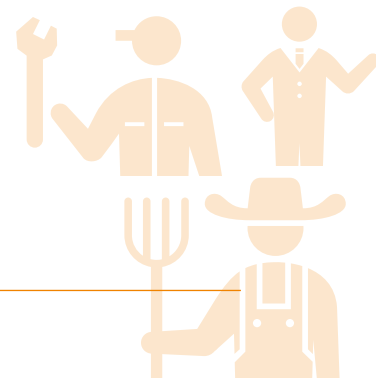
当社を含め自動車産業のサプライチェーンを担う協力会社は、めまぐるしく変化する国内・国際情勢、原材料相場、為替変動などの外的環境に即応しながら、顧客に遅延を起こすことなく、高品質・低コストの製品を供給し続けなければなりません。この購買説明会を貴重な情報交換の場となるよう有益な情報を提供することを心がけています。

また、品質・コスト・納期に模範的な対応をとっていただいた協力会社に「優秀協力会社賞」を進呈しました。





日本化薬グループは、お客様に最良の製品を提供するため、品質体制を整備し全社的に品質活動を行っています。また、製品品質の向上や安全性・信頼性に配慮し、技術サービスや情報提供がお客様の満足度向上につながるよう活動しています。



品質に対する取り組み

日本化薬グループでは、お客様の満足する最良の製品を提供し続けるために「環境・健康・安全と品質に関する私たちの宣言*」を基本方針とし、全社的に品質に対するさまざまな取り組みを展開しています。

品質経営推進部が中心となり、品質マネジメントシステムを構築し、お客様の満足度を向上させる品質保証・品質向上の活動を推進しています。品質保証活動としては、品質管理技術力を強化・向上させるための各種教育活動に取り組んでいます。その中の特徴的な活動の一つとして、統計解析手法の実践的な研修があり、研究者や開発者向けと工場従業員向けの“Field Data解析～おもしろ体得塾～”をそれぞれ実施しています。また、品質向上活動の一つとして「品質改善事例集」を発行し、品質改善手法の普及に努めています。

これら品質マネジメントシステムが有効に運用されていることを確認するために国内各事業場と海外を含むグループ会社の品質診断を実施しています。



“Field Data解析～おもしろ体得塾～”の研修風景。複雑な因果関係を机上で論理的に解き、その論理が実現することを実験で確認します。

※環境・健康・安全と品質に関する私たちの宣言：
日本化薬ウェブサイト CSR情報 環境・安全衛生・品質マネジメントシステム参照
<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/environment/>

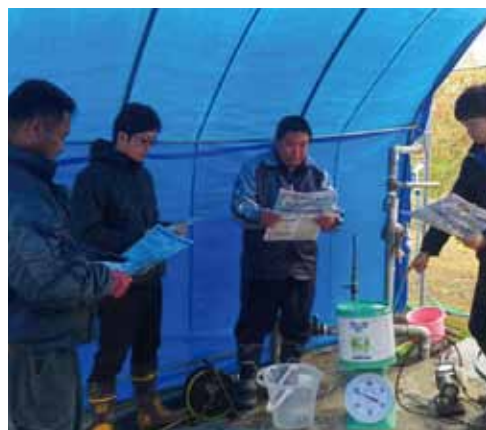
農薬の安全使用説明会の開催

アグロ事業では「クロルピクリン」を有効成分とする「カヤククロールピクリン」、「ドジョウピクリン」、「クロピクフロー」などのクロルピクリン剤を取り扱っています。

これらの製品は、土壌中に病原菌や害虫を防除する土壌くん蒸剤として、農作物の栽培には不可欠な農薬となっています。安定した効果の高さや作物に残留しないなどの特性から広く使用されています。

効果の良さと裏腹に、クロルピクリンは劇物に指定されており使用には注意が必要です。気化しやすいため目やのどを痛め、最悪の場合、命に関わる事故につながる可能性があるため、細心の注意を払って取り扱わなければなりません。

そのため、アグロ事業では説明会や使用前の説明指導を随時開催し、お客様に効果のみならず、安全使用について説明・指導しています。



大分県臼杵市野津町のピーマン農家。野津町はピーマンの産地で、約100名の方が栽培されています。

環境と健康と安全への取り組み



持続可能な社会・
環境に貢献する



いい会社・
強い会社になる

日本化薬グループでは、「環境・健康・安全と品質に関する私たちの宣言」を基本方針として「安全第一」、「環境経営」、「従業員の健康づくり」を推進し、事故・災害の未然防止、環境負荷低減および作業環境の改善などに取り組んでいます。

中期環境目標 (2011～2020年度)

日本化薬では、2020年度の中期環境目標を掲げ目標達成に向けた取り組みを実施してきましたが、2015年度の間中間結果により、目標値をより厳しいレベルに設定し直しました。

なお、報告対象は、日本化薬単体です。

分野	項目	2020年度目標値	2016年度実績
化学物質 排出量削減	VOC ^{*1} 排出量	42トン以下	29.2トン
	COD ^{*2} 排出量	150トン以下	125.2トン
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{*3} (生産部門+業務部門)	3.8%以上削減	72.1千トン
廃棄物削減	廃棄物発生量	23,500トン以下	20,386トン
	リサイクル率	80%以上	81.2%
	ゼロエミッション率 ^{*4}	3%以下	4.8%

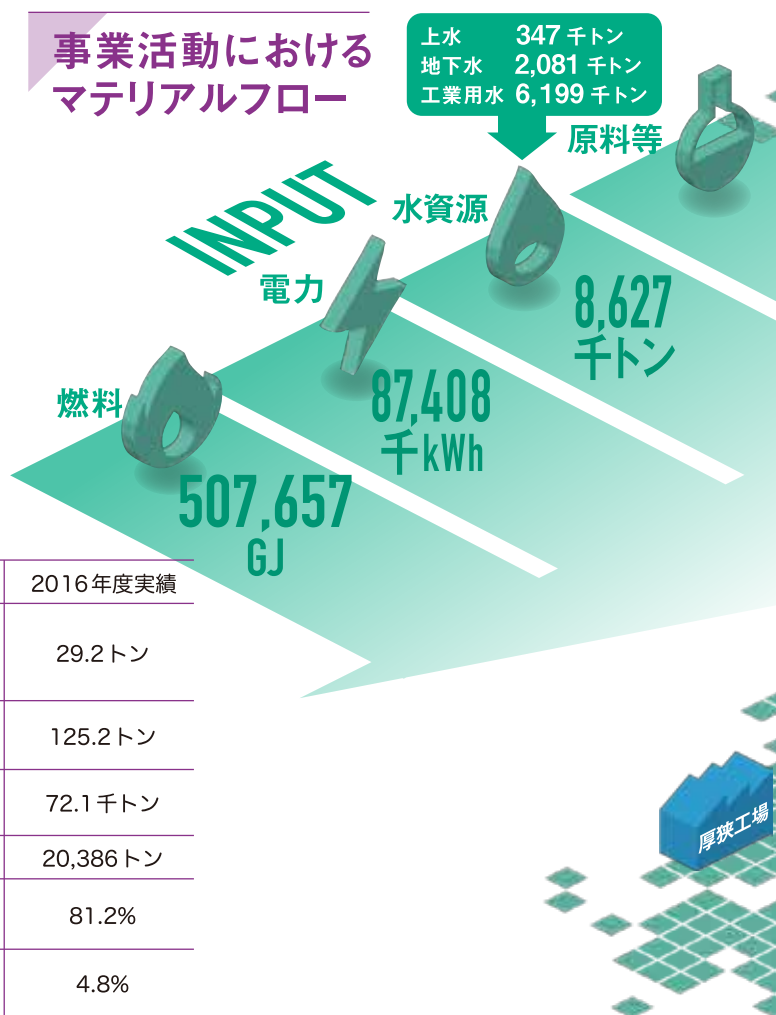
※1 VOC : Volatile Organic Compounds (揮発性有機化学物質) 政令および日本化学工業協会にて報告対象となっているものを集計しています。

※2 COD : Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。

※3 エネルギー起源CO₂ 排出量 : 2005年度(82.6千トン)を基準としています。

※4 ゼロエミッション率 : 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

事業活動における マテリアルフロー



生産技術本部長メッセージ

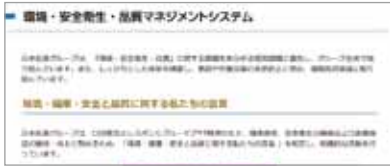
日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給すべく日々取り組んできました。

安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交代および製造所のグローバル展開に際する安全操業態勢の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。

CO₂ 排出削減、リサイクル率の向上、廃棄物低減などの環境対策については、規制への対応はもとより、将来の事業継続性を維持するためにも必要な地球環境の保全を目指し、製造工程や生産規模に適した技術的なベストミックスを確立すべく取り組んでいます。

今後もすべてのステークホルダーの満足を得るため、品質の維持向上とともにレスポンシブル・ケア活動を続けてまいります。

WEB ウェブコンテンツのご紹介



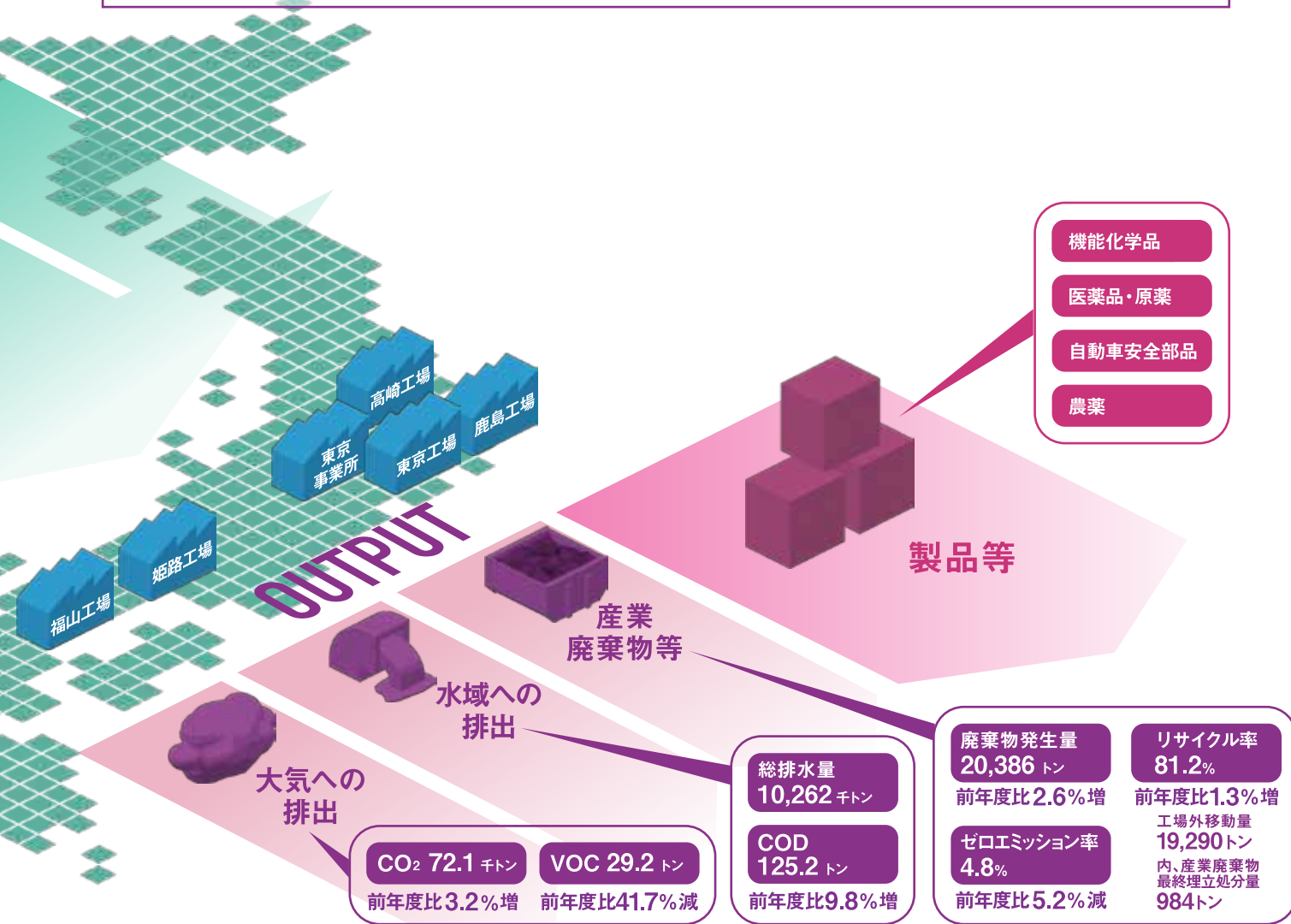
環境・安全衛生・品質マネジメントシステム
環境保全、安全衛生の推進及び品質保証の維持・向上に努めています。



安全衛生・健康に対する取り組み
事故や労働災害の未然防止、健康づくり活動に努めています。



環境に対する取り組み
中期環境目標達成に向けた各種施策を実施し環境負荷低減を図っています。

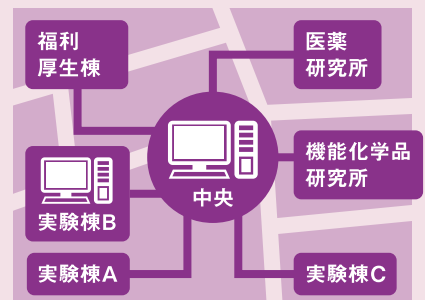


TOPICS

東京研究エリア※における省エネルギー活動

日本化薬グループの最大の研究開発拠点の東京研究エリアでは、エネルギーの合理的使用を研究段階から根付かせるため、エリア全体のエネルギー使用40～60%を占める空調設備の省エネルギーにつながる「中央制御システム」を2016年度に導入しました。これにより、空調の使用状況の「見える化」が進み、蓄積した情報を活用してさまざまな取り組みを実施しています。空調に関わる担当者とのミーティングを行い、ルーム毎に必要な管理をシステム上で個別に実施するなど、大きな省エネルギー効果につながっています。その他、集めた情報は月度の会議の資料としても使用され、エリア内に回覧することで、さらなる全体化を図っています。

※東京研究エリア：東京都北区にある機能化学品研究所や医薬研究所・間接部門等を含めた地区全体



社会への取り組み



持続可能な社会・
環境に貢献する

日本化薬グループは地域社会の活動に参加し、次世代を担う子どもたちの教育支援やステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを活発に行い、地域に根付いた会社を目指しています。

ピンクリボン活動

日本化薬グループでは、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動を2004年度から独自に開始し、2016年度で13年目となりました。

オリジナルキャラクター「Kayami」を作成し、毎年10月のピンク

リボン活動月間ではオリジナルキャンペーングッズの街頭配布を行っています。この活動は社員が参加して行っており、全社一丸となってピンクリボン活動に取り組んでいます。



日本化薬グループピンクリボン活動
オリジナルキャラクター「Kayami」

TOPICS

Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V.(KSM)でのピンクリボン活動

KSMは、メキシコにある自動車安全部品を製造しているグループ会社で、女性が社員の約半数を占めています。2016年10月に2回目のピンクリボン活動を行いました。

初めに社内の各種メディア（門や社内でのポスター掲示、食堂内のTV、グッズの作成等）を利用してピンクリボン活動について従業員へ伝えました。そして、月例トレーニングでは女性だけでなくすべての男性社員にも教育を実施しました。

トレーニングでは、自分で乳がんを見つける方法やこの知識を家族や友人に伝える方法について教育を行い、トレーニング終了後にピンクリボンのキャンペーングッズ（ペン・腕輪・キャンディー）セットを社員全員に配布しました。



原安三郎コレクション『広重』開催

福山市市制施行100周年記念協賛・日本化薬株式会社
創立100周年記念協賛

日本化薬は創立当時より広島県福山市に工場があり、福山市とともに歩んできました。この度、福山市市制施行100周年と日本化薬創立100周年を記念して、原安三郎コレクション※『広重』をふくやま美術館において開催しました。

日本化薬三代目社長の原安三郎が蒐集した浮世絵のうち約230点を展示し、2万人を超える多くの地元の方々にご来場いただきました。初摺りで状態の良い浮世絵を間近でご覧いただき、浮世絵という文化に触れていただく機会をつくることができました。

同様の浮世絵展は、日本化薬の工場や支社、グループ会社が存在する地域の5カ所の美術館等で開催しました。



※原安三郎コレクション：三代目社長の原安三郎は昭和のはじめ、版画、肉筆の浮世絵、水墨画、さらに書に至るまでコレクションしました。版画浮世絵は広重・北斎などの風景画が主ですが、いわゆる「揃い物」が丹念に蒐集されていることが特徴といわれています。

WEB ウェブコンテンツのご紹介



「リウマチら・ら・ら」
リウマチ患者さまのための情報提供サイトとして公開しています。



あすなろの家
難病とたたかう子どもと家族のため介護者用滞在施設を運営しています。



地域との関わり
工場祭などを通して地域の皆さまとのコミュニケーションに努めています。

教育CSRへの取り組み

日本化薬は、未来を担う子どもたちに化学の面白さを少しでも理解していただけるよう教育CSRとして、「夏休み子ども化学実験ショー（「夢・化学-21」委員会主催）」、「イベント型の実験教室」、「出張授業」の3テーマに取り組んでいます。

イベント型の実験教室は、2016年創立100周年記念事業の

一環として、各事業場の工場祭などで開催しています。（厚狭、高崎、姫路、鹿島、(株)日本化薬福山、(株)日本化薬東京）

今後は、各事業場の近隣小学校を対象に“理科への興味・関心を高めよう”と独自に開発した教育プログラムを使って、「出張授業」を2017年度に行う予定です。

TOPICS

高崎工場での次世代育成の取り組み

創立100周年記念事業として、高崎工場近隣の岩鼻小学校6年生2クラス55名、教諭4名、合計59名を招いて化学実験教室と工場見学を開催しました。

化学実験教室では、『ワクワク製剤体験!〜しゅわしゅわ“タブレット”を作ろう〜』と題し、水に入れると発泡し色が変化するタブレット作りを通して、医薬品の剤型としてなじみの深い錠剤の製造工程を楽しみながら体験していただきました。小学生たちのタブレット作りに真剣な姿や上手にできた時の無邪気な笑顔を見ることができ、最初は不安な表情をしていた

スタッフたちも最後は皆達成感と満足感を味わうことができました。

また、工場見学では、注射剤の製造・包装ラインなど、医薬品ができるまでの一連の製造工程を見ていただきました。後日、参加された生徒さん一人ひとりからお礼のお手紙が届き、多数の方が「化学が好きになりました」という感想が添えられ、当社におけるCSR活動の意義をあらためて認識しました。

今後も、近隣の子どもたちに化学の面白さを理解してもらえるような活動を通じ、高崎工場と地域社会との交流を継続していきます。



従業員への取り組み



いい会社・
強い会社になる

企業活動の主体は“人”。従業員一人ひとりの人権を尊重し、安心して働ける職場環境の整備に努め、仕事を通じて自らの成長と働きがいを感じられる会社を目指しています。

ダイバーシティ&インクルージョンの考え方

日本化薬グループは、多様な個性や価値観を持った人材（ダイバーシティ）を受け入れ、お互いに包摂（インクルージョン）することで、協力しあい、社員それぞれの個性・能力を最大限に発揮し、やりがいや充実感を感じながら生き生きと働くことにより、競争力を高め、成長していく経営を考えています。

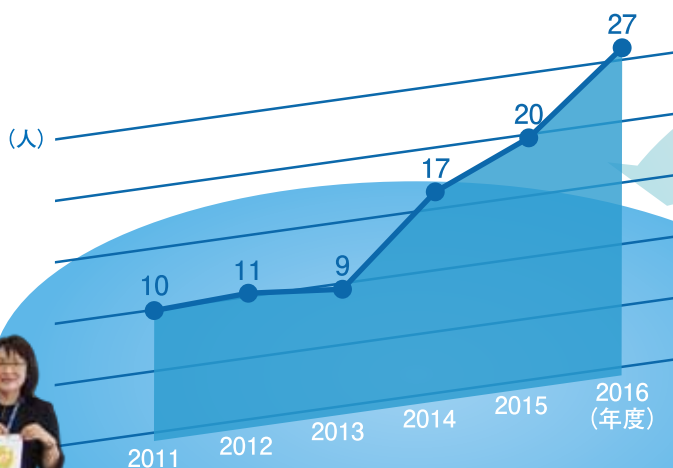
「ダイバーシティ」の推進には、特に、「男女共同参画」と「ワーク・ライフ・バランス」の推進が不可欠であり、これらの結果として、

女性の活躍をはじめ多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮できる環境が整備されると考えています。

さらに、お互いに包摂（インクルージョン）していくため、年齢、性別、宗教、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認、雇用形態の違いに関わらず、多様な人材が働きやすい職場環境づくりに努めています。また、多様な人材を公平に評価・処遇する人事制度としてポジションクラス制度（職務等級制度）を採用しています。

育児休暇取得者数

27人



男女共同参画



グループ管理本部長メッセージ

日本化薬グループはKAYAKU spiritの実現を目指し、その行動主体である従業員全員が自信と誇りを持ってそれぞれの役割と責任を果たしていけるよう、さまざまな制度の改革に努めてきました。年齢や性別、学歴にこだわらない職務配置と処遇を可能にした「ポジションクラス制度（職務等級制度）」は導入後すでに20年近く経ち、制度として定着しています。また性別に関係なく自発的にチャレンジできる管理職層への登用システムにより、女性の昇格者も年々増加しています。さらに導入時から継続就業を希望する定年到達者のほぼ100%を再雇用してきた「シニ

アパートナー制度」や養護学校とタイアップして進めている障がい者雇用など、ダイバーシティの推進にも積極的に取り組んでいます。

一方、事業のグローバル化はますます加速しており、それに伴って駐在員の赴任前・赴任後の教育実施はもちろんのこと、現地スタッフの計画的な人材育成も進めています。

今後も環境の変化に柔軟な対応ができるよう、人権を尊重しつつ、これまでの常識や慣習にとらわれることなく、新たな発想で体制の整備に取り組んでいきます。



WEB ウェブコンテンツのご紹介



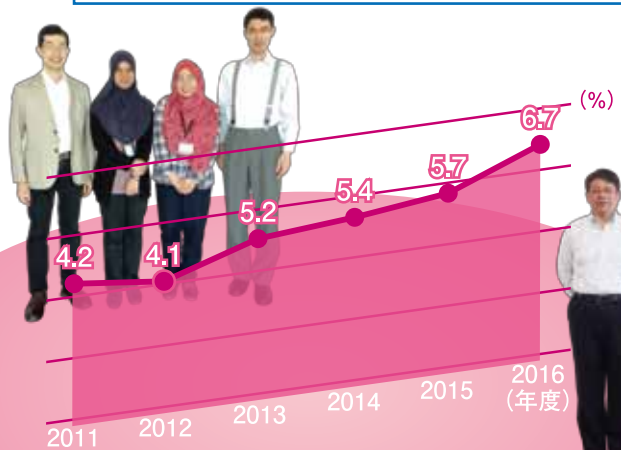
ダイバーシティの推進
多様な社員が能力を最大限に発揮し、やりがいや充実感を感じながら働きます。



男女共同参画のための制度の充実
社内制度の充実や拡充だけでなく制度の活用促進に取り組みます。



ワーク・ライフ・バランス
労使協力して労働時間管理だけでなく社員の意識改革を行っています。

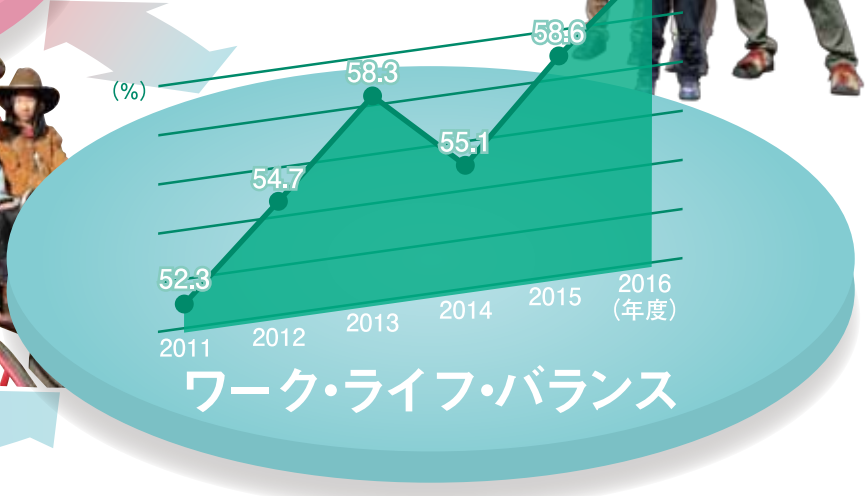


女性管理職比率
6.7%



ダイバーシティの推進

有給休暇取得率
62.7%



ワーク・ライフ・バランス

TOPICS

Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. 「KSM 高校プログラム」を開始

KSMでは、従業員のレベルアップのため2016年8月からKSM 高校プログラムを始めました。

KSM 高校プログラムは、1年以上勤務し、欠勤がないという条件を満たせば従業員ならだれでも参加できるようにしています。また、講師は地域の高等学校の教師に依頼し、授業は10カ月間毎週日曜日に行っています。卒業資格を取るためには本人の努力もさることながら従業員全員のサポートも必要です。

第1期生は、2017年7月に28名が高校卒業証書を受け取る予定です。KSMでは、すべての従業員が高校卒業証書を受け取れるよう協力しています。



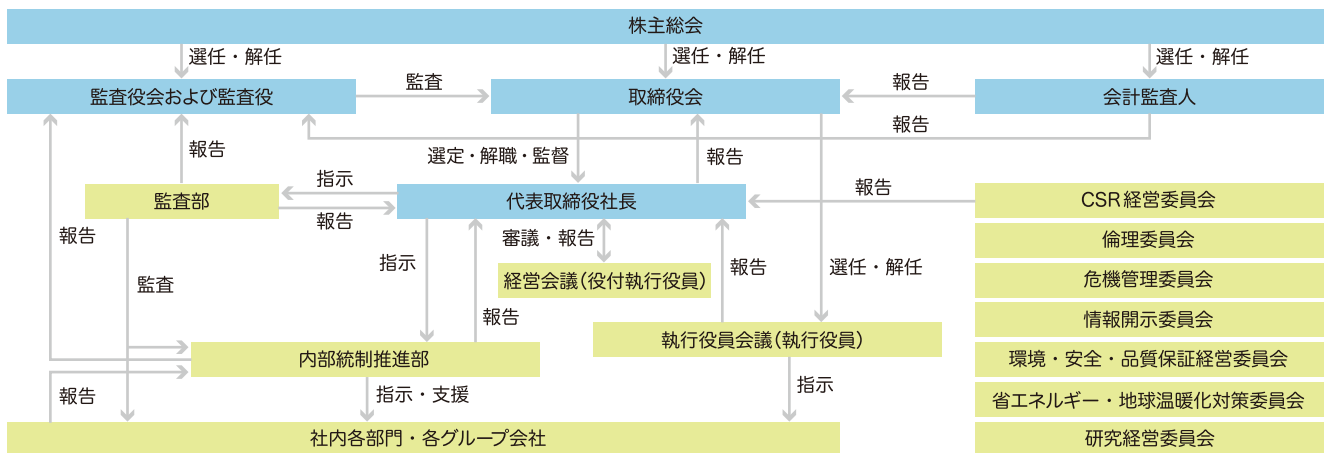
コーポレート・ガバナンス



日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるために、タイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、コーポレート・ガバナンスの拡充・強化に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制

内部統制システム概念図



日本化薬は、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

執行役員制度を導入し、経営の「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化し

て適切な意思決定と迅速な業務執行を行うとともに、独立社外取締役の導入により業務執行者に対する監督機能の強化を図っています。監査役は、取締役会等の各種社内重要会議に出席するほか、内部監査部門との情報交換等を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

コンプライアンス

私たちは、コンプライアンスの推進と人権の尊重は企業活動におけるもっとも重要なことであり、事業継続するうえでの基礎であると考えています。また、法令遵守・社会規範の遵守はもとより、社会からの要請に応え社会の一員として良識ある行動までを含む幅広いものと捉え、倫理的な観点からもそれに反する行動は慎むよう徹底しています。

コンプライアンスを推進するために全従業員を対象とした研修を計画的に実施しており、海外グループ会社ではリーガルリスクのほかに地域の文化・習慣などを考慮しながら実施しています。そして、「内部通報・相談窓口」を社内および外部にも設置し、コンプライアンス違反につながる事象を防止し、早期に是正することに努めています。

リスクマネジメント

企業活動に伴う多岐多様なリスクを適切に把握し、コントロールすることはコーポレート・ガバナンスにおける極めて重要な課題として捉えています。毎年、危機管理委員会が承認した「リスクマネジメント行動計画」を実施し、行動計画の一環として「TOP5リスクコントロール活動」※を推進し、従業員一人ひとりのリスク意識の向上と発生リスクの共有化を図り、リスクの低減に努めています。

各事業固有のリスクはそれぞれの事業部門が対応することを原則としています。環境や安全といった企業活動全般に関わる事象や輸出貿易管理などの特に重要な事象については、専門部署を設置して対応しています。さらに、企業活動に重大な影響を与えるようなリスクに備え「危機管理マニュアル」などを制定し、危機管理体制を整備しています。

※TOP5リスクコントロール活動：国内外の組織ごとに、重要と思われるリスクを5つ抽出し、その対策を立案、実行する活動。

BCPへの取り組み

BCPマニュアルの整備

日本化薬グループでは組織横断的なBCPプロジェクトを立ち上げ、「目標期間内に事業を復旧する」考えのもと、国内すべての事業部や工場においてBCPマニュアルを制定しました。さらに、日本化薬グループとしてグローバルなリスクに対応するため、

海外の事業場においてBCPマニュアルの整備をはじめ、2016年度には中国子会社2社において海外BCPマニュアルを制定し運用を開始しました。

BCP訓練

制定したBCPマニュアルを速やかに稼働させるためには、継続的な訓練が重要です。BCP訓練は毎年実施し、社長をはじめすべての役員が参加しています。

2016年度は厚狭工場と機能化学品事業本部において、中国地方に大型の台風が接近し厚狭工場が被災した想定で、テレビ会議にて本社・厚狭工場川東と川西の3拠点をつなぎ、遅滞なく製品を提供できるかなど本番さながらの訓練を行いました。

今後とも、継続してさまざまな場面を想定しBCP訓練を実施していきます。



企業概要

会社概要 (2017年3月末現在)

会社名	日本化薬株式会社	電話番号	03-6731-5200(代)
設立	1916年(大正5年)6月5日	従業員数	単体1,856名 連結5,517名
資本金	149億3千2百万円	グループ会社	子会社34社 持分法適用会社4社
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	決算期	3月31日

主な事業内容

機能化学品	機能性材料、色素材料、触媒、偏光フィルム、光学部材	セイフティシステムズ	自動車安全部品
医薬	医療用医薬品、医療機器・医療材料、医薬原薬・中間体、診断薬、食品・食品添加物、食品品質保持剤	アグロ	殺虫剤、除草剤、殺菌剤、土壌くん蒸剤
		その他	不動産事業

財務関連数値 (2017年3月末現在)

■ 関連数値

売上高 **1,591億1千7百万円**

親会社株主に帰属する当期純利益 **156億3千5百万円**

ROE **8.2%**

研究開発費 **139億7千4百万円**

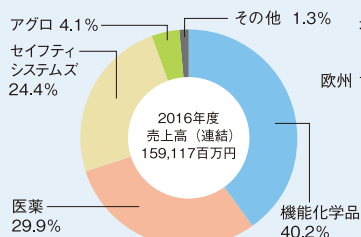
納税額 (法人税等の支払額) **62億1千5百万円**

■ 決算資料

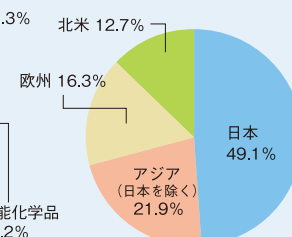
詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/ir/library/>

■ 事業別売上比率(連結)



■ 地域別従業員比率



※従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません。※対象は日本化薬本体と連結子会社26社です。

History in 100 Years

日本化薬グループの主な事業の変遷と社会貢献の歩み

1916年 硫化染料ブラック上市

1917年 日本初の産業用ダイナマイト製造開始

1931年 土壌くん蒸剤「クロールピクリン」製造開始

1932年 消炎鎮痛剤「アスピリン」を上市

1963年 デミング賞実施賞を受賞

1964年 農業用殺虫剤「ダイアジノン[®]」製造開始

1969年 抗腫瘍性抗生物質「ブレオ[®]」を上市

1992年 自動車安全部品インフレーター製造開始

1999年 インクジェットプリンタ用色素製造開始

2002年 環境対応型エポキシ樹脂「NC-3000」本格上市

2014年 日本初の抗体医薬バイオシミラー「インフリキシマブBS」を上市



日本初の産業用ダイナマイト包装作業



硫化染料ブラック製造工場



消炎鎮痛剤「アスピリン」



殺虫剤「ダイアジノン[®]」原体



抗腫瘍性抗生物質「ブレオ[®]」



自動車安全部品

101年目からの日本化薬グループ

これまで培ってきた火薬・染料・医薬の技術を引き継ぎ、これからもその時代に合わせて進化し続けます。つねに社会が求める最良の製品を提供し、100年後も社会から必要とされる存在でありたい、そんな夢に向かって私たちは101年目を着実に歩み出しています。

※年表の詳細は、当社ウェブサイト内 CSR 情報 特集ページ (<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/special/>) を参照ください



表紙写真について

タイトル 故郷の魅力
撮影場所 フセチン チェコ共和国
撮影者 INDET SAFETY SYSTEMS a.s.
 Mr. Zdeněk Machač
 (ズデニェク・マハチ)



撮影者コメント

ハイキングの途中に丘で一休みしたときに、この写真を撮りました。祖国の谷が見られます。この美しい展望は決して飽きません。この写真はCSR活動の価値観「家族、故郷、自然」を反映すると思います。

日本化薬株式会社

〒100-0005
 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
 TEL:03-6731-5200 (大代表)
<http://www.nipponkayaku.co.jp/>
 2017年6月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC[™] 認証林および管理された森林からの製品である「FSC[™] 認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。